議会だより
たのはた
No. 146
2026.3.1
岩手県田野畑村議会

12月定例会

2　12月定例会で決まったこと
3　議案ピックアップ
4　ここが聞きたい！一般質問
7　常任委員会の活動報告
8　みんなのスマイル

やっぱり鬼さん怖いよぉ！

たのはたこども園（三浦千穂子園長、園児44名）で2月3日、節分の豆まきが行われました。園児たちは、自分の中にいる泣き虫鬼や好き嫌い鬼を退治しようと豆をまきました。すると、本物の鬼がやってきて大騒ぎに。一緒に記念撮影するときも、怖さのあまり涙がこぼれました。

地域商品券と子育て応援手当
物価高対応２事業予算を可決

12月 定例会

第８回定例会が12月9日から11日までの会期で開かれました。村長より提案された議案は8件（条例案2件、補正予算6件）。一般会計補正予算では、物価高対応事業として、地域商品券発行事業と子育て応援手当に係る補正予算が提案され、これを原案どおり可決しました。

また、陳情1件は、産業建設常任委員会に付託し、継続審査することに決定しました。

条例

●一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

岩手県人事委員会の勧告に鑑み、初任給調整手当、通勤手当及び宿日直手当並びに一般職の職員の給料表について、所要の改正を行うもの。

●社会福祉施設等の事業者等の要件及び設備等に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

児童福祉法の改正に伴い、乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準について条例で定める必要があることから、所要の改正をしようとするもの。

補正予算

●一般会計補正予算（第６号）

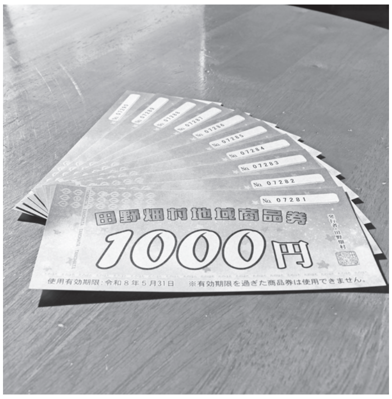
１億３７９９万２千円を追加し、総額を42億１２７３万９千円とするもの。主な内容は次のとおり。

・震災復興特別交付税返還金…４７７６万１千円
・道路除雪対策事業…２０００万円
・自立支援給付事業…１０００万円
・道路維持事業…５００万円
・ミルクプラント管理事業…４５４万８千円

●一般会計補正予算（第７号）

４３９９万円を追加し、総額を42億５６７２万９千円とするもの。主な内容は次のとおり。

・地域商品券発行事業…３５０１万６千円（関連記事３ページ）
・物価高対応子育て応援手当給付事業…７６７万４千円（関連記事３ページ）
・村営住宅等管理業務委託料



地域商品券は1人10,000円分

●国民健康保険特別会計補正予算（第３号）

【事業勘定】５６２万２千円を追加し、総額を６億２１９万４千円とするもの。主な内容は次のとおり。

・保険給付費等交付金返還金…４７８万円
・総合保健施設運営事業（修繕費、職員人件費）…52万７千円

【直営診療施設勘定】３７３万円を追加し、総額を１億３７３５万４千円とするもの。主な内容は次のとおり。

・一般管理費（職員人件費、消耗品費等）…１９６万４千円
・医療用消耗器材（医科）…80万円

●介護保険特別会計補正予算（第３号）

【保険事業勘定】２４９３万４千円を減額し、総額を５億７０２３万円とするもの。主な内容は次のとおり。

・一般管理費（システム改修、職員人件費）…８２１万円
・施設介護サービス給付費（実績による減額）…▲１４００万円

●簡易水道事業会計補正予算（第２号）

簡易水道事業費54万１千円を追加し、総額を２億２６４７万９千円とするもの。

・浄水場電気料…50万円
・職員人件費…４万１千円

●下水道事業会計補正予算（第２号）

下水道事業費21万３千円を追加し、総額を１億５０９５万５千円とするもの。

・処理場動力電気料…16万６千円
・職員人件費…４万７千円

陳情

●浜岩泉飲雑用水道管理運営を田野畑村へ移行することについての陳情

・陳情者…浜岩泉飲雑用水道事業共同組合　組合長　橘萬喜雄

・陳情要旨…浜岩泉飲雑用水道管理委託契約を解消し、田野畑村による管理運営に移行することを求める。

・陳情理由…地域住民の高齢化や加入世帯の減少による料金収入の減少に加え、管理人や検針員などの担い手不足が深刻な問題となっている。さらに、施設老朽化による修繕費の増大も懸念され、組合による管理運営が困難となるため。

・審議結果…産業建設常任委員会に付託し、継続して審査する。

議案 Pick Up（ピック アップ）

こんなことが決まりました

令和7年度一般会計補正予算（第7号）

物価高対応2事業の予算を可決

◆地域商品券の発行

地域商品券発行事業費は3501万6千円。物価高騰の影響を受けた生活者や事業者の支援を通じた地方創成を図ることを目的に実施するもので、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用します。

村に住民登録（基準日は令和8年1月1日）がある村民が対象で、1人当たり1000円の商品券10枚が交付されます。

この商品券は、村内の商店など参加店舗で、令和8年5月31日まで使用できます。

◆子育て応援手当の給付

事業費は767万4千円。国の物価高対応子育て応援手当支給事業費補助金を活用し、物価高の影響を強く受けている子育て世帯を支援します。児童手当の対象児童1人につき2万円（1回限り）が、児童手当受給者に給付されます。

申請は原則不要ですが、令和7年10月1日以降に出生した児童の保護者など、申請が必要な場合があります。

1月30日から順次、児童手当受給口座または届け出た口座に振り込まれます。

12月定例会で決まったこと

議案番号	議　案　名　等	審議結果
議案第1号	一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	可決
議案第2号	社会福祉施設等の事業者等の要件及び設備等に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	可決
議案第3号	令和７年度田野畑村一般会計補正予算（第６号）	可決
議案第4号	令和７年度田野畑村国民健康保険特別会計補正予算 (第３号)	可決
議案第5号	令和７年度田野畑村介護保険特別会計補正予算（第３号）	可決
議案第6号	令和７年度田野畑村簡易水道事業会計補正予算（第２号）	可決
議案第7号	令和７年度田野畑村下水道事業会計補正予算（第２号）	可決
議案第8号	令和７年度田野畑村一般会計補正予算（第７号）	可決
陳情	浜岩泉飲雑用水道管理運営を田野畑村へ移行することについての陳情	委員会付託

ここが聞きたい！一般質問

一般質問は定例会初日の 12 月９日に行われました。畠山智議員、中村勝明議員、佐々木伸議員、上村浩司議員、小野協次議員の５人 (登壇順) が、村政運営や教育行政について、村の考えを問いました。ここでは、各議員が行った一般質問と村の答弁を掲載します

質問者	質　問　項　目
畠 山　智	◆高齢者世帯の除雪作業について、村の対策を伺う。 ◆有害鳥獣の対策が課題。電気柵の補助限度額を見直す考えはないか。
中村　勝明	◆高齢者、低所得者世帯へのエアコン設置補助をどう検討しているか。 ◆㈱陸中たのはたの経営状況を伺う。 （その他の質問）訪問介護事業の自治体助成について、新庁舎建設に係る審議会の検討状況　ほか３件
佐々木　伸	◆養殖ワカメ産業を進める上での村長の考えを伺う。 ◆新庁舎建設の必要性は認めるが、他に優先すべきことがあるのではないか。 （その他の質問）どのように村民の力を結集し、声を吸い上げ、一つにまとめていくのか　ほか２件
上村　浩司	◆役場新庁舎の検討状況を伺う。 ◆ふるさと納税の現状と「たのはた産品」ブランド化の取組みを伺う。 （その他の質問）新年度予算の編成方針について
小野　協次	◆新庁舎建設は、ＰＦＩ方式が有力な整備手法ではないか。 ◆全国でクマが学校施設に侵入する事案が起きている。対策について伺う。 （その他の質問）住宅支援制度・家賃補助について、教職員の処遇改善について　ほか６件

高齢者世帯等の除雪対策は

村長…対象を確認し取り付け道を除雪　連携による新たな仕組みを検討

畠山　智 議員

【問】高齢者世帯の除雪作業について、村の対策を伺う。

【村長】村は、公道までの取り付け道路の除雪について、対象箇所を確認し進めている。

各自治会では地域づくり交付金「結いの除雪」等を活用して支援していただいているが、担い手不足により対応に苦心している自治会もあると伺っている。また、自治会によっては、地域コミュニティ助成事業（宝くじ助成事業）による除雪機の購入や、所有機械を有効活用するなど、共助により対応していると承知している。

自治会、地域で支援が難しい高齢者世帯等については、実態を把握するための調査を実施の上、除雪計画の中で公助において対応することなどを検討していく。

一方で、共助や公助が前提の生活支援は、支える側の負担が大きくなることが危惧されることから、住民への過度な負担を避けるための方策について、自治会等と連携した新たな視点での仕組みづくりを検討していく。

【問】クマやシカなど有害鳥獣の対策が課題。電気柵の補助限度額を見直す考えはないか。

【村長】現在は補助率2分の1、限度額は個人5万円、法人20万円としている。昨今の有害鳥獣出没件数の増加に伴い、さらなる電気柵等の設置の推進により被害を防ぐ対策の必要性を痛感している。JA等に出荷している農家においては耕作面積が大きく、設備整備費用が多額になることから、現況を考慮した上で、個人、法人とも補助率及び限度額について見直しを検討することとしている。

中村 勝明 議員

エアコン設置補助どう検討

村長…安全と福祉を主眼に制度を設計
新年度当初に予算を計上したい

【問】高齢者、低所得者世帯へのエアコン設置補助をどう検討しているか。

【村長】全国的に猛暑日や熱中症警戒アラートの発表回数が急増している。

本村でも真夏日や猛暑日が増え、危険な暑さが常態化しつつあると認識しているが、エアコンの普及はまだ低いと感じている。特にも、高齢者や障がい者等の配慮を要する世帯では、エアコンの使用の可否が、熱中症から命を守れるかどうかに直結する局面に入っていると受け止めている。

一方で、公費で支援する場合は、公平性を勘案した上での検討も必要となるが、諸条件を整え、熱中症による重症化や救急搬送などの生命の危険回避のため、高齢者等要配慮世帯の安全と福祉の確保を主眼とした制度設計を詰めている。その結果を踏まえ、予算規模も含め総合的に判断の上、新年度当初予算へ計上できるよう取り組んでいく考えです。

【問】㈱陸中たのはたの経営状況を伺う。

【村長】ホテル羅賀荘の売り上げは、９月末時点で前年を６５０万円ほど下回る状況。宿泊者数は、10月末で1万５５９５人。前期と比較して１５４７人減少している。

観光船の乗客者数は、11月末で５１０１人（団体２３５９人）で、前期から１３５１人減となっている。

宿泊事業については、原材料費や光熱費等の高止まりにより厳しい経営状況にあるが、一昨年に策定した経営改善計画による業務改善に傾注しているところであり、引き続き経営改善に努めていく。

佐々木 伸 議員

養殖ワカメ業どう推進する

村長…新規就業を支援する制度を用意
区画引き継ぎも支援を検討する

【問】養殖ワカメ産業を進める上での村長の考えを伺う。

【村長】近年、新規の就業者はなく、昨年は高齢により廃業する方が使用していた区画10台分を他の漁業者が複数人で引き継いだと伺っている。

現時点では新規就業予定者はいない状況だが、担い手の支援制度も用意していることから、漁協と情報を共有し新規就業希望者の確保、支援を行う。また、廃業する方の区画を引き継ぐ場合等も、施設改修、更新等に経費が生じる場合が予想されることから、ワカメ生産量を減らさぬよう支援を検討していく。

【問】新庁舎建設の必要性は認めるが、人口減少や将来世代への負担を考慮すれば、他に優先すべきことがあるのではないか。

【村長】現庁舎は、昭和38年の建設から60年以上が経過し、老朽化が顕著になっているほか、バリアフリーの未整備や待合スペースの不足など、来庁する村民にご不便をおかけしている。

また、平成26年度に実施した耐震診断では、震度6強の揺れで倒壊の恐れがあるという結果が出ている。有事の際の安全確保や役場機能の維持、災害対策の拠点としての在り方が危惧され、職員や来庁する村民の命を守るためにも早急な対応が求められている。

将来負担については、できるだけ費用の抑制につながるような建設手法や規模などを検討していくほか、それとは別に、産業振興等を含む村の諸課題への対応についても、庁舎建設と並行して鋭意取り組んでいく。

庁舎整備の検討状況を伺う

村長…審議会答申を受け村方針を決定
基本計画案の策定作業を進める

上村 浩司 議員

【問】役場新庁舎の検討状況を伺う。

【村長】12月中に審議会から新庁舎の建設候補地について答申がされる予定。答申を受けて、村としての方針を決定し、詳細な基本計画の策定作業を行っていく。基本計画案がまとまり次第、審議会を開催して基本計画全体について審議していただき、本年度中に答申をいただく予定としている。

　審議会の内容を広く村民にお知らせするため、第３回審議会から公開としている。答申の内容などは、広報紙やホームページなどで随時、情報を発信していく。

【問】ふるさと納税の現状と「たのはた産品」ブランド化の取組みを伺う。

【村長】ふるさと納税の寄付額は、毎年度増えており、昨年度は寄付件数２０８１件、対前年度比２９７％増の４３２７万円余の寄付をいただいた。本年度も、11月30日現在で寄付件数３４２５件、対前年度同期比２１８％の６３２７万円余の寄付額となっている。

　たのはた産品ブランド化については、６次産業化協議会を中心に、村産品の商品化支援及びＰＲに取り組んできた。友好都市等でのイベントに村内事業者が共同で出店しているほか、６次産業化協議会が主体し、盛岡市内でのＰＲ販売イベントを開催している。

　また、今年11月には、県庁に副知事を表敬訪問し、日本一の生産量を誇る本村のあい鴨生産の取り組みを紹介するとともに、新ブランド「岩手三陸たのはた鴨」を発表。㈱アマタケや㈱甘竹田野畑、村内事業者と連携したＰＲの取組みを展開することとしている。

小中学校のクマ対策を伺う

教育長…マニュアル策定し危機管理
学校は連絡体制や見守り強化

小野 協次 議員

【問】新庁舎建設は、ＰＦＩ方式（※参照）が有力な整備手法ではないか。

※ＰＦＩ…プライベート・ファイナンス・イニシアティブの略。公共施設の設計、建設、維持管理、運営などを民間の資金、経営能力、技術力を活用して行う手法。サービス向上と事業コストの削減を目指すもの。

【村長】田野畑村新庁舎建設基本構想の中で４つの整備手法を示している。それぞれにメリット、デメリットがあると認識している。

　具体的な整備手法については、今後、基本計画等の中で比較検討していくこととしているが、他自治体の事例なども参考にしながら、工期やコストなど本村の新庁舎建設に最も適した方法を取り入れる。

【問】最近、全国でクマが学校施設に侵入する事案が起きている。対策について伺う。

【教育長】危険等発生時には、学校保健安全法に基づく「危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）」に沿って行動する。

　教育委員会においては、クマの出没時の安全管理対策として、小中学校へ県教育委員会からの通知等を送付、校長会などでの注意喚起等を行うほか、学校施設と社会体育・教育施設の環境整備や注意喚起ポスターの掲示などを行っている。

　なお、学校では、環境省が示す対応マニュアル等を参考にしながら、改めて「危機管理マニュアル」を見直し、保護者へのクマ情報通知、クマ鈴の携帯促進、登下校や部活動等での教員見守りを強化するなどの対応を行っている。

総務教育民生常任委員会

訪問介護報酬に関する発議案を委員会で審議

【12月19日】村の訪問介護の実情を寿生会で聞き取り調査

総務教育民生常任委員会（工藤求委員長）は令和７年12月19日、社会福祉法人寿生会を訪問し、訪問介護事業に関する聞き取り調査を行いました。

これは、令和７年第７回定例会に提出された議員発議案「訪問介護報酬引き下げ撤回と介護報酬引き上げの再改定を早急に行うことを求める意見書について」が、同常任委員会に付託されたことから、村における訪問介護事業の実情を把握するため行ったものです。工藤委員長ほか委員２名、鈴木議長が寿生会を訪問し、寿生苑の中机茂幸施設長から訪問介護事業の説明を受けました。

聴き取り調査の様子。写真左は工藤委員長

中机施設長は、「村の訪問介護事業は利用者数が少なく、赤字収支が続いている」「基本報酬の引き下げにより、さらに厳しい環境下での経営が余儀なくされ、経営状況が悪化している」「小規模事業所では、事業継続を危ぶむ声も聞かれる。当法人でも、全体の経営状況を勘案し、訪問介護の事業継続について協議している」と説明。また、「移動距離に応じた報酬加算など、地方の実情を考慮した支援があると非常に助かる」「現在の国支援は一時的なものなので、次の報酬改定がどのようになるのか心配」と話していました。

寿生苑の中机施設長

【1月20日】聞き取り調査踏まえて委員会で審議を重ねる

総務教育民生常任委員会は１月20日、役場議員控室で委員会を開催し、訪問介護報酬に関する議員発議案を審査しました。

初めに、発議案を提出した中村勝明議員が提案理由を説明。そして、昨年12月に寿生会で行った聞き取り調査の内容を踏まえて審議を行いました。

聞き取り調査で浮き彫りになったのは、基本報酬の引き下げにより経営環境が厳しくなっていること、移動距離が長いなど都市部とは異なる条件下で事業実施せざるを得ないこと、そして、地方の実情を考慮した国の支援が望まれるということでした。

委員からは、「地域の実情に即した意見にすべき」「訪問介護報酬に絞った方がよいのでは」などの意見が出され、委員会としては、介護報酬の一律の引き上げではなく、地方における特殊事情を考慮した支援を求めていくことが重要という意見で一致しました。

本件については、今後の審議も踏まえて、委員会として採択するか否かを採決します。そして、その結果は、今後に招集される議会に報告され、本会議で最終的に決定します。

議員のための財政基礎講座 テーマは「予算書の読み方」

地方議員のための自治体財政基礎講座が1月20日、オンラインで行われ、元福岡市財政課長の今村寛氏が「予算書の読み方」をテーマに講演しました(写真)。今村氏は、予算審査の視点として、❶アクション (事業内容の磨き上げ)、❷ビジョン (将来像の実現)、❸フレーム (枠組みの堅持)が重要と説明。そして、よりよい予算決算審査のためには、「議員は市民を代位し、議論を代行する役割がある。議会は市民同士の対話を代行する劇場である」と講演しました。

みんなのスマイル

似内 洋子 さん
（菅窪・58歳）

◆お仕事は

家業の田野畑自動車工業㈱で事務を担当しています。

◆スマイルの源は

感謝する気持ちから笑顔も生まれてくると思います。仕事でも、誰に対しても、感謝の気持ちを忘れないでいたいと思っています。

◆趣味や夢中になっていることは

ラッパーの「ちゃんみな」が好き。いつもパワーをもらっています。去年はライブにも行ってきました。

◆村や議会に期待することは

親になる世代や子どもたちのための支援を手厚くするなど、小さい村だからできることもあると思います。ここに生まれ、ここに暮らして幸福を感じられる。そんな村であってほしいと思います。

宮古・釜石地区選出の岩手県議会議員と懇談

懇談会では地域課題について意見交換

東部町村議会議長会（会長・八重樫龍介岩泉町議会議長）は2月16日、宮古・釜石地区選出の岩手県議会議員との懇談会を開催しました。

懇談会には、県議会議長の城内愛彦議員、佐々木宣和議員、畠山茂議員が出席。各町村が抱えている水産振興や道路改良などの課題について意見を交換しました。

本村議会の鈴木隆昭議長は、人口減少対策に直結する産業政策の構築について発言。「県が進める自動車産業や半導体産業等の集積、ＩＬＣ誘致などは、県内経済をけん引するために有効であるが、県土の均衡ある発展を図るために、県北・沿岸地域における産業振興と雇用の創出を推進していただきたい」と要望しました。

お詫びと訂正

本紙№145（12月15日発行）の3㌻に掲載した議員発議案の記事に誤りがありました。賛成者は、正しくは「上村浩司、佐々木伸」でした。お詫びして訂正いたします。

あとがき

寒さの中にも、少しずつ春の気配を感じる季節となりました。皆さまには日頃より議会活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今号では、12月定例会で決まったことを中心に、一般質問の概要や常任委員会の活動などをお伝えしております。

新年度を目前に控え、人口減少や物価高騰、産業・経済の低迷など、さまざまな課題に対し、議会としても引き続き真摯に議論を重ねてまいります。本紙が村民の皆さまと議会をつなぐ架け橋となるよう、今後ともご意見ご提案をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

広報公聴常任委員会
副委員長　佐々木功夫

■発行　田野畑村議会　■編集　広報公聴常任委員会
〒028-8407　岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑 143-1
TEL 0194-34-2111　FAX 0194-34-2410